

人権教育研究推進事業等における個別的な人権課題の実践事例

※本資料の事例は、これまでの人権教育研究推進事業における実践事例や、人権教育に関する実践事例から抽出し、趣旨を変えない形で要約したものです（このうち、人権教育に関する実践事例から抽出・要約したもの（*）は、文部科学省ホームページの「人権教育」のページに要約前のものを掲載しています。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/jirei/1384040.htm)

なお、各個別的な人権課題に関し、本資料で示した学年や教科等で扱わなければならないものではありません。人権教育は教育活動全体を通じて行うものであるため、人権教育の全体計画や年間指導計画を策定し、学校における教育目標全体の中での位置付け等を明確にした上で、取組を進めてください。

小学校

女性の事例＜3年生：特別活動（学級活動）＞

- ・「ドッチボール」、「清掃活動」、「授業中」の3つの場面で起こりがちな性別による偏った見方や言動を取り上げた自作教材（紙芝居）から、おかしいと思うところを話し合った上で発表し、問題点を考えた。
- ・ワークシートを用いて、実際の場面で、どうすれば性別による違いを認め、その人の個性を大切にしたい声掛けになるかをグループ内で発表し、ロールプレイを行った。

子供の事例＜5年生：道徳＞

- ・いじめに関する読み物教材により、その中に登場する人物の立場からいじめられている主人公を取り巻く子供たちの行動や気持ちを知り、主人公に自分を重ねることで、誰もがいじめられる側になりうることに気付き、いじめをなくすためにどんなことができるかを考えた。

高齢者の事例＜4年生：総合的な学習の時間＞

- ・キャラバン・メイト（認知症サポーター）の方々を講師に招き、高齢者福祉体験を行い、高齢者や認知症の特徴を正しく理解するとともに、様々な体験を通して、人と接する時に大切なことや、相手の立場に立った思いやりの心について考え、相手の身になって優しく接することの大切さについて学んだ。

障害者の事例＜4年生：総合的な学習の時間＞

- ・年間6回の福祉実践教室を行い、第1回（開講式）では、福祉とは何かについて社会福祉協議会から話をしてもらい、福祉に対する意識を高め、全員が「町の守り人」としての認定証カードをもらった。第2回から第5回は、実際に目の不自由な人の話を聞き、手話や点字の体験をして、「点字」「手話」「盲導犬」「車いす体験」の4つの観点から福祉に対する理解を深め、体の不自由な人への理解や自分にできることなどを考えた。第6回（学習発表会）では、これまで「福祉」について学んだことを発表した。

同和問題の事例＜6年生：社会＞

- ・「米騒動」を題材として、苦しい生活をしていた人々が「自らの行動」を起こしたことを知り、資料「全国水平社宣言」を読んで、水平社運動を起こした人々の思いや願いを考えて話し合い、差別を解消するための運動について分かったことを作文に書いてまとめた。

アイヌの人々の事例<6年生：社会>

- ・日本国憲法の前文や関係資料から、国民主権の考え方や国民が政治に参加する制度を読み取り、暮らしの中の権利や義務について調べるとともに、子どもの権利条約から、社会の変化に伴って新しく考えられるようになった基本的人権について学習した上で、アイヌの人々への偏見や差別についての資料を読むことで、これまで自分たちが気付かなかった問題について考えた。その後、ペアで話し合い、学びの振り返りを行うことによって、基本的人権に対しての自分の考えを持つことができた。

外国人の事例<4年生>

- ・世界中には多様な考え方や価値が存在することを実感し、自分と違った意見や考えを受け入れることができるようになることを目的として、様々な国や地域の方とふれあう活動を通して、外国と日本の文化や生活、習慣の比較を行った。

HIV感染者・ハンセン病患者等の事例<5年生、6年生：体育、道徳、特別活動（学級活動）>

- ・差別を許さない感性を育てるため、エイズについての正しい知識を身につけ、差別の現実と自分とを重ねて考えた。また、道徳などの教科書で、病気の予防や命の重さはみな同じことを学んだ。
- ・差別のない社会を目指す態度を育てるため、ハンセン病問題の歴史や回復者への差別について学んだ。

インターネットによる人権侵害の事例<4年生：特別活動（学級活動）>

- ・「インターネットってなあに？」をテーマに、情報モラルについて考え、相手の気持ちや状況を考えて情報発信することの必要性を学んだ。

北朝鮮当局による拉致問題等の事例<6年生：道徳> *

- ・家族の絆の大切さと、拉致問題によりそれが打ち破られたことの説明を聞いた後、アニメ「めぐみ」を視聴した。視聴後、めぐみさんが突然なくなった時の両親の気持ちや、街頭で救出を呼びかける両親の気持ち、たくさんのマスコミに取り上げられたことに対する両親の気持ちについて話し合った。

中学校

女性の事例<1年生：技術・家庭、特別活動（学級活動）>

- ・自作教材により、日常生活の中で必要がないのに男女別に分けられている事柄が存在していることに気づき、男女間の固定的役割分担意識が一人一人の生き方を狭めていることを考えた。

子供の事例<学年不特定：社会> *

- ・チョコレートの原料であるカカオが、産地の子どもたちの過酷な労働（児童労働）によって作られていることや、児童労働から守るために作られたフェアトレードチョコレートは、結果的には価格が高くなることの説明を聞き、児童労働がなくなる現状があり、なぜなくなるのかを考えた。
- ・外国での児童労働の例を写真で見て、身近な日用品も児童労働によって作られたものがあることに気づき、児童労働が自分と関係無いものではないことを認識した上で、児童労働を解決するためにどんなことができるのかを考えた。

高齢者の事例<3年生：総合的な学習の時間>

- ・高齢者に対する偏見や思い込みを取り除き、高齢者の人権を尊重し、ともに生きていく意識を育てることや、高齢者の現状や課題、高齢者を支援し擁護している機関の取組について理解を深めること、高齢者に対して自分たちができることを話し合い、合意形成を図り意思決定することを目的に、高齢者の生活の様子や抱える課題について話し合い、専門家の話や高齢者の疑似体験を通して理解を深めた。また、それらを通して学んだことを踏まえ、高齢者とともに生きていくために自分たちにできることは何かについて考えた。

障害者の事例<2年生：総合的な学習の時間>

- ・パラリンピックに関する教材を使用して、パラリンピック学習に取り組んだ。
- ・福祉団体の協力を得て、校内での車いす体験を行い、車いすに乗ったり、介助されたりする経験を通して、相手の状況や気持ちを考えて言葉をかけたり行動したりすることの大切さなどを学んだ。
- ・車いすバスケットボールチームや障害者スポーツ指導者を講師として、親子行事としてパラスポーツ体験（車いすバスケット、ボッチャ）を行った。競技の観戦だけでなく、障害者とともにスポーツを行うことができることを体験し、パラスポーツを通じた障害者との新たな関わり方について学んだ。

同和問題の事例<3年生：総合的な学習の時間>

- ・同和問題（部落差別）の現状を具体的な例を踏まえて正しく理解することや、差別の解消に向けて取り組もうとする態度を養うことを目的として、結婚する時に理想とする相手の条件をそれぞれ考えた上で、県民意識調査の結果では、「出身地」を結婚の条件としてあげていることなどを踏まえ、差別の現状を学んだ。これらを通して学んだことを踏まえ、差別の解消に向け自分に何ができるのかを考え、グループで話し合い、理解を深めた。

外国人の事例＜3年生：社会、道徳＞

- ・多文化共生社会を生きる私たちにできることを考え、より良い社会の実現について考えることができるようになることを目的として、スポーツ界の外国人差別の事象やヘイトスピーチの事例を用いて、起こった事実とその後の過程を知ることによって考えた意見を話し合った。
- ・「表現の自由」と「ヘイトスピーチ解消法」について考え、デモ・街頭宣伝、インターネットのコメント等により拡散していく不安や嫌悪、差別意識によるトラブルから信頼関係が損なわれていくことを学び、お互いを尊重し、多様性を認め合うことの大切さを考えた。

HIV感染者・ハンセン病患者等の事例＜2年生：特別活動（学級活動）＞

- ・ハンセン病についてのDVDを視聴し、正しい知識を得て、世間の反応についてどう感じたかなどを考え、その内容を班や学級全体で共有した。また、差別の解消や差別に発展しないために必要なことは何かを考えた。

※中学校での学習用に、厚生労働省から毎年、パンフレット「ハンセン病の向こう側」が配布されており、当該パンフレットを活用した授業も行われている。パンフレットを活用した授業の方法は、同時に配布されている指導者向け教本を参照のこと。

刑を終えて出所した人の事例＜3年生：道徳＞

- ・刑を終えて出所した人を扱った教材の学習を通して、現実には根強い偏見や差別があることを学び、差別や偏見のない社会を実現していくために、私たちの社会で大切にしたいことは何かを考えた。

犯罪被害者等の事例＜1～3年生＞

- ・犯罪被害者遺族（飲酒運転による事故によって当時高校生であった息子を亡くした母親）から、交通事故による命の危機は中学生にとっても他人事ではなく、自分の命の尊さを考えることはもちろんのこと、自転車という車両を扱う当事者として加害者にもなってはいけないという自覚を養うことを目的とした話を聞き、命の大切さや自他の命はその家族にとってかけがえのないものであることについて考えた。

北朝鮮当局による拉致問題等の事例＜2年生、3年生＞ *

- ・拉致問題について知ることや、子を思う親の気持ちや家族が互いを思いやる心情を育むことをねらいとした鑑賞会で、拉致問題の概要の説明を聞いた後、アニメ「めぐみ」を鑑賞し、拉致問題の具体的な内容を知り、拉致被害に遭われた方やその家族の心情を考えた。

高等学校

子供の事例＜2年生、3年生：国語、保健体育、外国語、家庭＞

- ・国語や外国語においては子供に関する読み物で、保健体育において保健活動や対策を、家庭においては児童虐待や子供と関わることなど、子供に関する人権課題を教科横断的に学んだ。

高齢者の事例 *

- ・高齢者とのふれあいを通して、思いやりの心を育み、共生社会の一員としての自覚を高め、高齢者に対する意識を深めるために、月1回、近隣の特別養護老人ホームを訪問し、歌・折り紙・ゲームなどで、高齢者との交流を図った。また、特別養護老人ホームを訪問して、吹奏楽部の演奏で高齢者とフォークダンスやゲームなどで交流を図った。

障害者の事例＜1年生、2年生＞

- ・様々な障害について理解を深めるとともに、他者を尊重することの重要性を学ぶため、肢体不自由の施設利用者から、経験談や日本の状況についての概要を聞き、障害者として生きるということがどういうことなのか考えた。
- ・全盲の記者から、AI機器を活用した取材やオリンピック・パラリンピック統合問題等についての話を聞き、生徒代表のパネリストとともに、なぜ境界線を作り差別をするのか、その差別が何を生み出すのかについて考えた。

同和問題の事例＜2年生：特別活動（ホームルーム活動）＞

- ・被差別部落の歴史について学ぶことで、身分による差別がどのような過程で形成されたのかや、差別の構造的な問題が為政者だけに起因するものではないことを学び、解放運動をはじめ、同和問題の解決に向けた取組の意義について考えた。

アイヌの人々の事例＜1～3年生：総合的な学習の時間＞

- ・アイヌの人々の生活文化を理解し、文化伝承の必要性を考えるため、地域にあるアイヌ資料館等を活用したグループ学習を行い、アイヌ民族の生活様式と現代生活や他の少数民族との比較、環境保全の検討等を行った。
- ・人権教育講演会においてアイヌ文化をわかりやすく伝える活動をしている講師から、アイヌ民族として多文化共生社会を目指す意義についての講演を聞き、過去のアイヌ民族に対する差別の状況を実感し、多様性を認め合う共生社会を目指すことについて考えた。

外国人の事例＜2年生：特別活動（ホームルーム活動）＞ *

- ・ 偏見や差別意識に由来するヘイトスピーチについて考えることを通して、自身の生き方や在り方を振り返り、違いを認め合い共に生きることができる社会の実現に向けて学習を深めることを目的として、ヘイトスピーチを扱った映像を視聴し、その実態や参加者の主張、参加した経緯、ヘイトスピーチが起きる背景などを学び、感想を共有した。また、映像資料により、就職差別や結婚差別などの実態を理解し、これらの学びを踏まえ、話し合った。
- ・ 講演会で、有識者から日本と韓国・朝鮮との文化的交流や歴史問題についての講演を聞き、双方の立場を学び、理解・尊重することや両国間の近代史をそれぞれの視点で学ぶことの重要性などについて考えた。

HIV 感染者・ハンセン病患者等の事例<1年生：特別活動（ホームルーム活動）>

- ・ ハンセン病に関する資料やDVDから、ハンセン病の入所者とその家族への差別を知り、差別がどうして生まれたかを考えることで、正しい知識を持たないことが差別を生み、他者に歩み寄り互いに知ることが偏見や差別の解消につながることを学んだ。また、学習内容を「学習レポート」にまとめ、家庭へ報告し、知識を他者に伝えることで、差別解消の実践者としての意識を持つことができた。

インターネットによる人権侵害の事例<1～3年生>

- ・ 外部講師から、インターネット上で発生するコミュニケーショントラブルなどを想定した事例を用いながら円滑なコミュニケーションに必要な要素やインターネットの特徴、トラブルの際の影響範囲や注意点について学ぶとともに、ワークや自ら考え想像力を働かせる質問により、SNSでのコミュニケーションの仕方について考えた。

北朝鮮当局による拉致問題等の事例<1年生>

- ・ アニメ「めぐみ」の視聴後、生徒にとって身近で大切な人権課題であることを感じることができるように工夫した教材によって拉致問題の実態や歴史をより深く具体的に学び、自らの課題として深く考えた。